

・新型コロナウイルス感染症流行期の対応

新型コロナウイルスは飛沫（しぶき）、エアロゾル（ウイルスを含む微粒子が浮遊した空気）あるいは接触により感染するとされています。口対口人工呼吸だけでなく、胸骨圧迫のみでもエアロゾルを発生させる可能性があります。新型コロナウイルス感染症が流行している状況においては、すべての心停止傷病者に感染の疑いがあるものとして救命処置を実施します。

安全の確認・反応をみる

1. 周囲の安全を確認する
 まず、自分自身がマスクを正しく着用できているか確認します。もし、人数に余裕があるなら、通報や救命処置をする人以外は窓を開けて部屋の換気を行ったり、救急車の誘導をしたりするなどして多人数で密集しないようにしましょう。

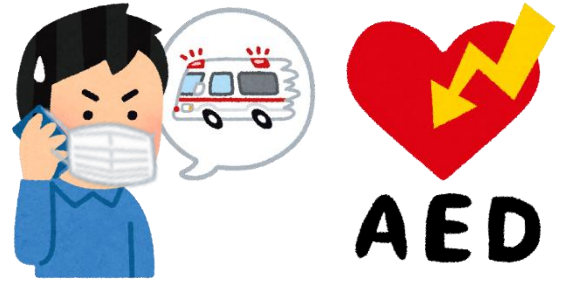
2. 呼びかける
3. 軽く肩をたたいてみる
顔をあまり近づけすぎないようにして傷病者の方をやさしくたたきながら大声で呼びかけます。



119番通報とAEDの手配

※非流行期と同様に対応します。

1. 助けを呼び、人を集める
2. 集まった人の中から指名して119番通報やAEDを持ってくるように依頼する



呼吸をみる

1. 傷病者を仰向けにする
2. 傷病者の胸やお腹の動きを見る
あまり顔を近づけすぎないようにして呼吸の確認します。



救急隊員へ引き継ぎ後の対応

傷病者を救急隊に引き継いだ後は、すぐに石鹸と流水で手と顔を十分に洗ってください。アルコールで手を消毒するのも有効です。それまでは不用意に首から上やほかの物に触れないようにします。傷病者に使用したマスクやタオルなどは、直接触れないようにして廃棄します。



人工呼吸

成人の心停止に対しては人工呼吸は行わず、胸骨圧迫とAEDによる救命処置のみを実施します。ただし、小児の心停止に対しては、講習を受けて人工呼吸の技術を身につけていて、人工呼吸を行う意思がある場合には、人工呼吸も実施してください。

AEDの使用手順

※非流行期と同様に対応します。

1. AEDを持ってくる
2. AEDの電源を入れる
3. 電極パッドを貼る
4. 心電図の解析と電気ショック



胸骨圧迫

傷病者がマスクを着用していれば、外さず胸骨圧迫を実施します。マスクを着用していなければ、マスクやタオル、衣服などで傷病者の鼻と口を覆ってから胸骨圧迫を開始します。

ハンカチやマスク等で口や鼻を覆うこと



対象者	テンポ	位置	押さえる手の形	圧迫の深さ
成人	毎分100～120回	胸の真ん中（胸骨の下半分）	両手	約5 cm
小児			両手または片手	胸の厚さの約1/3
乳児			指2本	

※胸骨圧迫の方法は非流行期と同様に対応します。